

ゴルフ同好会

「ゴルフ」の平気物語

< 平気物語 >

コースキャディのファーの声諸行無常の響きあり サラのボールが森へ行きついに130台の本性をあらはす タマタマのパーも久しからずただ春の夢のごとし 単なる偶然は遂に綻びぬひとえに強風に向かうスライスボールの如し

遠くの例をとぶらえばドライバーのチョロアイアンのトップ バンカーショットのホームラン ビビリのパット これは皆セオリー原則に従はず 楽を極め 諫めをも思い入れず スコアの乱れんことを悟らずして キャディの愁ふところを知らざつしかば久しく悪しき腕なり

近く自分をうかがふにドライバーのどスライ ス 林の中のキンコンカン 寄せのダフリ スリーパット みなとりどりにこそありしかども 間近くはハーフ65と申しスコアのありさま伝え承るこそ心も詞も及ばれぬ

< 口語訳 >

コースキャディが「ファー!」、なんとも無常な響きだ。新品のボールが森の中へ行ってしまう。「もったいない! ポロのボールにしとけばよかった。」「ここでついに130台の本性が出てたなあ。」

前のホールのパーは偶然、ただ春の夢のよう。そのようなものがすぐに破綻するのは当たり前、強風に向かう、弱弱しいスライスボールのようなものだ。

他人を見るとよくわかる。ドライバーのチョロ、アイアンのトップ、バンカーショットのホームラン、ビビったパット、これはみんなセオリーに従わず普段練習もせず楽をし、人の諫めも全く聞き入れずではスコアが乱れるのは自明。キャディさんの心配などを忖度することもなく、いつまでたっても悪い腕前がよく見とれる。

最近の自分を考えてみれば、どスライスのティショット、林の中でキンコンカン、寄せではダフリまくり、スリーパットは当たり前、みないろいろの理由はあるが、最近ではハーフ65というスコアがあったような。自分も人と同じようなものであることに全く想像が至らないようだ。自分のことは棚に上げて平気で下手なゴルフを続けている。まさにゴルフ平気物語。



有名な古典の冒頭の部分をパロってみました。これはゴルフの何であるかが全く分かっていない小生のことです。おちゃらけはさておき……

東京玉翠会のゴルフ同好会は年2回春と秋に開催しております。

だいたい10組前後、30数人から40人くらいの参加者ですが、登録会員は170名くらいであります。年代としては80歳を優に超える大先輩から平成生まれの若手まで、腕前のほうも80台から130台まで、老若男女が和気あいあいと集いゴルフを楽しんでいます。

※写真は第40回記念大会のもの。最多の60名の参加でした。賑やかでしょ? 楽しそうでしょ?

冒頭のおちゃらけで言いたかったことは、このような情けない小生でも本会でゴルフを楽しむどころか、本会の事務局を立派に務めているということ。

要は、「ゴルフを楽しみたい方は誰でもおいでませ!」ということなのです。

平均スコア80そこそこの方、歓迎します。こんな小生に是非とも檄を飛ばしてください。ビギナーの方、歓迎します。ほかのコンペの練習ラウンドにどうぞ。

女性の方、歓迎します。本会は女性ティも完備しております。きっとドラコンが取れることでしょう。また女性優勝という賞も用意してありますよ。

若手の方、特に歓迎します。若い方が入らないと本会の継続もままなりません。

この秋第48回を迎えるゴルフ同好会のコンペに「おいでませ!」

連絡先

事務局 **神崎 俊** (S52年卒) t-kanzaki@pearlace.co.jp